

第6回 日タイ観光WG 日本側開会挨拶  
(2026年2月13日)

- サワディー・クラブ。皆様こんにちは。
- 運輸総合研究所会長の宿利でございます。  
本日は第6回日タイ観光ワーキンググループに内外から多くの皆様にご参加いただいております。誠にありがとうございます。開会にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。
- まず、ご多忙のところ、ご出席を賜りましたご来賓の
  - ・ 駐日タイ王国特命全権大使 ウィッチュ様、
  - ・ 観光庁長官 村田様、

タイ側主催者としてはるばるタイからお越しいただきました

- ・ タイ王国観光スポーツ省次官 ナッターヤー様、

に心より御礼申し上げます。

また、本日発表者としてご登壇いただきます、

- ・ タイ・持続可能な観光のための指定地域管理局  
(DASTA)  
コミュニティ・ベースド・ツーリズム部長  
ワッサナー様、

- ・ タイ・コンベンション・アンド・エキシビション・ビューロー (TCEB)

国際会議・インセンティブ部長 スパニッチ様、

- ・ 一般社団法人 田辺市熊野ツーリズム・ビューロー  
代表理事 多田様、

そして、現地調査及び本ワーキンググループの開催のために、タイからお越しいただきましたタイ王国代表団の皆様にご心より感謝申し上げます。

- 日タイ観光ワーキンググループでは、2023年12月の第1回ワーキンググループ以来5回にわたって、ソフトパワーの活用による観光の地域分散や、持続可能な観光地経営など、日タイ両国が共通して直面する課題をテーマに、現地調査と議論を重ねてまいりました。
- 「持続可能な観光地経営」のあり方については、特に地域資源の磨き上げや地域主体による観光開発の重要性、観光によって生み出される利益をいかに地域へ還元するか、などについて活発な議論を行ってまいりました。

- これまでの議論を通じて、観光地が抱える課題の可視化、コミュニティとの協働、多様な主体が連携するDMOの役割の重要性など、日タイ双方に共通する多くの論点が明らかになりました。
- 本日の第6回ワーキンググループでは、「DMOの使命と役割」をテーマとしております。これまでの議論を通じて、観光を単なる誘客や経済活動として捉えるのではなく、地域の価値を守り、育て、将来につないでいくための仕組みとして位置づけることの重要性が、日タイ両国において一層高まる中で、DMOをめぐる議論を深めることは、まさに時宜を得たテーマであり、大変意義深いものであると考えております。
- 一方で、後ほど観光庁の村田長官による基調講演でも話題になるかと思いますが、日本においては、DMOの役割や機能について、財源や人材、体制面を含め、なお多くの課題を抱えているのが現状です。したがって本日のワーキンググループは、いずれか一方がその成果を示す場ではなく、日タイ双方がそれぞれの現状や課題を率直に共有し、互いに学び合うことによって、課題解決に向けた対応策を考える場にしたいと私は考えています。

- 併せて、ナッターリヤ一次官をはじめ日タイの調査団の皆様には、  
一昨日、昨日と2日間にわたり、田辺市熊野ツーリズム・ビューローをはじめ、和歌山県田辺市、新宮市、串本町及び白浜町の関係者の皆様、並びに南紀白浜エアポートの皆様の大なるご協力のもと、和歌山県・熊野エリアを中心に現地調査を実施していただきました。本日のディスカッションでは、有識者からの発表と共に、この現地調査を通じて得られた気づきや知見も取り入れて、ぜひ実践的な議論を深めていただきたいと考えております。
  
- 最後に、本日の議論が、日タイ両国の観光政策や地域づくりの実務に還元され、持続可能な観光地経営のさらなる発展につながることを、そして、何よりも、来年、日タイ修好140周年を迎える日本とタイ王国の友好協力関係の一層の強化につながることを心より期待いたしまして、開会の挨拶といたします。
  
- コップン・クラブ。皆様、本日は誠にありがとうございます。